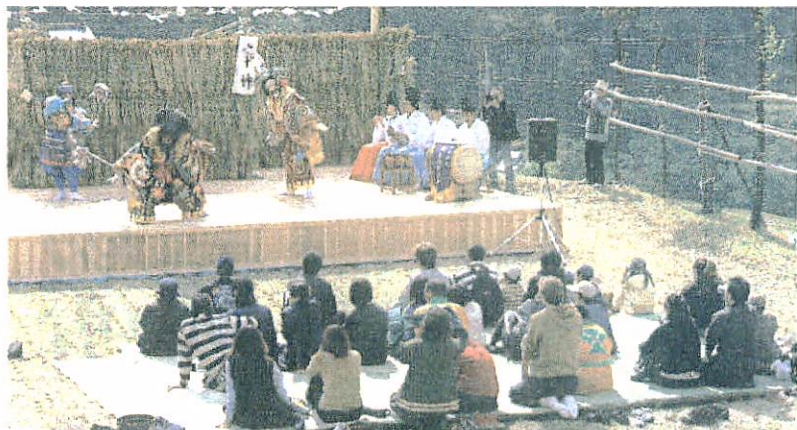


2004年(平成16年)6月10日(木曜日)

言 査 査 衆 庁 農 園

里地里山コンテスト30に三隅町両谷連合自治会



棚田維持に一丸取り組み

イベント成功 生産意欲高まる

人々の暮らしに密接なかかわりを持つ里地、里山の保全に尽くした団体を表彰する「里地里山活動コンテスト30（読売新聞社主催、環境省共催）」で、県内から、棚田の維持に取り組む三隅町両谷地区の「両谷連合自治会」（六十九戸）が選ばれた。表彰式は十二日、読売新聞東京本社である。

若者定着 基盤作りへ

同自治会に所属する上室の棚田地域等緊急保全対策谷、下室谷、諸谷の三地区事業の対象となり、ほ場整備などが始動。これを受け、が行われてきたが、高齢化などで衰退、荒廃が進んでいた。一九九八年、農水省

地域活性化の起爆剤となり、生産活動への意欲にもつながった「棚田まつり」（昨年10月27日、三隅町上室谷で）

開催。農産品の試食会や神楽のほか、町立石正美術館とタイアップした写生大会や作品展もあり、町内外から数百人が訪れて、地域住民との交流を深めた。

「棚田まつり」は秋の収穫後の恒例行事となり、写真コンテスト、ウォーキングなど年々、新たな企画を追加、「室谷の棚田」の知名度もアップしている。

イベントの成功で生産活動への意欲も高まった。二〇〇二年には、生産技術などを学ぶ「両谷の里山塾」を設立。米作り、山野草、郷土食の各部会ごとに専門家を講師に招くなどして研究を続けている。特に減農薬・減肥料栽培されたブランド米「室谷棚田米」は人気が高いという。

上室谷地区の有志が翌九九年、都市の住民に棚田で稲作を体験してもらう「オーナー制度」を始めた。これを機に、イベントを通じた活性化の機運が地域全体で盛り上がり、二〇〇一年十月には、自治会主催の「第一回棚田まつり」を見ている。

同自治会の佐々木茂量会長（64）は「今までの活動を基に、地元の若者たちが定着できるような基盤作りにも取り組みたい」と意欲を見せている。